



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第17号

2005.5.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめてもっぱら「かりお」の名前をつかっています。

もくじ

おしらせ

-第12回総会を開催

活動報告

-山焼き後の雲月山観察会
-両生類の産卵調査

読者サロン

-テーマトーク
「芸北の春、ここが好き！」

観察会案内

-サクラソウの保全活動
-原生林バードウォッチング
-カキツバタの里づくりへ向けた地域の取り組み

花だより

-オオヤマザクラ
-リュウキンカ
-クロモジ

おしらせ

第12回西中国山地自然史研究会総会を行いました
(2005.4.17)

4月17日15時より、芸北文化ホールにて総会を行いました。観察会や調査、会費のことが審議されました。昨年度の会員の方には郵便で届いているとおり、観察会のスケジュール・会費・観察会参加費などについて決定されました。

活動報告

山焼き後の雲月山観察会

開催日時：2005年4月17日(日)9:30

講師：上野吉雄・佐久間智子・和田秀次

参加人数：23名

絶好の晴天に恵まれ、22名の参加者が9時30分、雲月山駐車場に集合。本日の先生は、和田先生・佐久間先生・上野先生です。1週間前に雲月山(約8ha)を山焼きした跡地の動植物の状態を観察することが目的です。和田先生から「なぜ山焼きをするのか」を考えるために「1. どんな植物が燃えたのか」「2. 植物のどこが燃えたのか」「3. 生きていた植物」「4. 芽生えてきた植物」のことを注意して観察してくださいと指示があり、早速焼け跡に入りました。早くも何かを見つけました。葉は焼けても立派な花をつけたショウジョウバカマでした。付近をよく観察すると沢山のショウジョウバカマがあります。参考までに根系はどうなっているのか、掘りあげてみました。ササの根が沢山ある中を縫うように、しっかりと地下部と根系が表れました。地上部の葉は熱により茶色く変色していましたが地下部は異常のないことが確認できました。もちろん、掘りあげたショウジョウバカマの株はもとの位置に丁寧に埋め戻しておきました。その他にも、ノダケ、スゲ、ノアザミ、イヌツゲ、カシワ、ヤシヤブシ、オオバコ、スイバ、ヨモギ、ヤナギ等が確認できました。上野先生からは、キツネや猛禽類のえさとなるハタネズミの巣穴や、ハタネズミの通路が沢山あることを解説してもらいました。頂上で昼食を済まし、別ルートで植物観察をしながら下山。最後に、山焼きは「樹林化しないこと」「動植物の多様化」を図ることが目的であり、今後、継続的な観測をして草地に関心を持ってもらいたいと、先生の締めがあり13時30分散会しました。(大野 勉 さん)

なぜ山焼きをするのかという、その理由が、自ら山焼き後の観察を体験する事で、よく理解できた。急斜面を這いつくばりながら小さな新芽を観察したり、土壌の状態を手で感じ

てみたりと、体の色々な感覚を使いながら観察をすることで、受け身ではなく主体的な観察をすることができた。(小林 栄一 さん)

山焼きのないときには見られない所や歩けない所を歩けたり、焼け跡で咲いているショウジョウバカマの花、ハタネズミの巣、通り道など、自然の生命力に感動しました。夏から秋の植物の生長が楽しみです。(山場 奈津子 さん)

※ 今回から、観察会レポートを参加者の方に手伝って頂いてます。小林さん、山場さんには、資料的なレポートも頂いてますので、こちらは自然館の資料にするとともに、ホームページで公開していこうと思います。大野さん、小林さん、山場さん、どうもありがとうございました。



まず、和田先生による今日のチェックポイント4項目。



燃え残った所の状態確認をする佐久間先生。



焼け野原を思い思いに歩く。



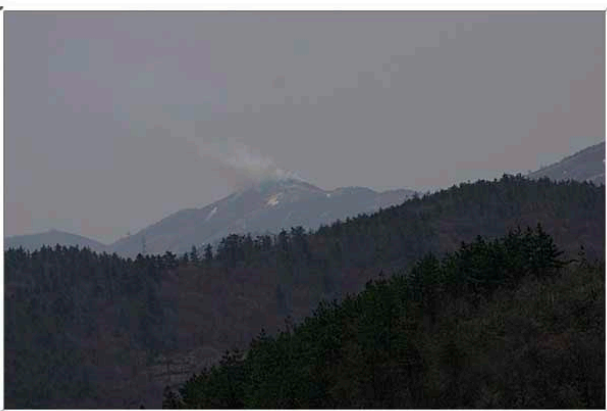
ショウジョウバカマが咲いていた。



お天気もいいし、絶景。



燃えていない所で植生の確認。



深入山の山焼きが見えるなんて…！



今日のまとめ。朝のチェックポイント4項目の結果について。

活動報告

両生類の産卵調査

開催日時：2005年4月29日（金）9：30

講師：内藤順一

参加人数：14名

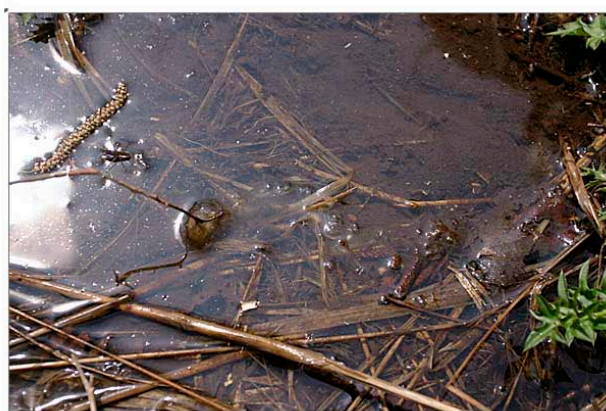
コブシとサクラが咲き競う中、14人の参加者が自然館に集まりました。二川キャンプ場へ移動して、まずはサンショウウオ全般について、カスミサンショウウオの生態についてレクチャーがあった後、いよいよ本物の卵の観察です。カスミサンショウウオが産卵するのは、「1. 落ち葉などがたまっている場所」「2. 新鮮な水がゆっくり供給されている場所」「3. 山（森林）と隣接している場所」だそうで、二川キャンプ場内の産卵場所では、すぐに卵塊を確認することができました。あるものは尾芽胚、あるものは孵化寸前まで発生が進んでおり、観察の刺激で卵から出てくる幼生もいました。一通りのレクチャーを受けた後は、いよいよ5班に分かれて卵塊探しです。今回は、サンショウウオだけでなく、カエルの卵も探しました。90分後に再集合し、調査結果をまとめた結果、2年前の結果とほぼ同じ場所で産卵が行われており、人工的に改変された牧場跡では全く産卵に利用されていない、ということが分かりました。また、参加された島津さんのお話では、今年は水質・水量ともに少しおかしいのではないかと、ということでした。晴天が続いたためでしょうか。最後に全員で実験地を観察すると、沢山のヤマアカガエルのオタマジャクシが泳いでいました。一年前までは全くの乾燥地でも、環境さえ整えば、動物は帰ってくることを証明されたのです。湿原の再生に向けて、また一歩前進したような気がしました。（白川 勝信）



はじめに、資料を使っでの概要説明。



まずは、実績のある二川キャンプ場で観察。



枝に付いた卵塊の中では、かなり発生が進んでいました。



こちらは別の卵塊



卵塊を守る親もいました。



内藤先生の解説に、覗き込む参加者たち。



コブシが満開。でも、足跡はカラカラ。これでは両生類にとっては地獄だなあ...



次々に見つかる。



雪に倒されてしまったあぜ波。それでも、オタマジヤクシはたくさんいました！

観 察 会 案 内

サクラソウの保全活動

開催日時：2005年5月8日（日）9：30
集合場所：美和東文化センター
講師：サクラソウを育てる会
準備：山を歩ける服装，弁当，水筒，筆記用具，双眼鏡など
定員数：30名
参加料：300円
（ただし，西中国山地自然史研究会会員は100円）

北広島町美和地区（旧芸北町）では，芸北のサクラソウを保存し，育成する活動を2000年から続けてきました。遺伝子を使った最近の研究では，美和地区のサクラソウは，広島県東部や九州に自生する個体群とは異なる，独立した系統を確立していることが分かりました。今回は，その活動を紹介していただきながら，美和地区の自然観察を行います。観察会の後には，サクラソウを取り巻く環境について茶話会を設ける予定です。

主催：西中国山地自然史研究会
協力：高原の自然館，芸北文化ホール

原生林バードウォッチング

開催日時：2005年5月14日（土）5：00
（早朝です。注意してください！）
集合場所：臥竜山雪霊水付近
講師：上野吉雄
準備：山を歩ける服装，弁当，雨具，双眼鏡，図鑑，メモ等
定員数：30名
参加料：300円
（ただし，西中国山地自然史研究会会員は100円）

また春がやってきました。苧尾ではキビタキやマミジロなど，夏山におなじみの鳥がさえずりはじめています。アカショウビンもそろそろやってくるころです。というわけで，今年も恒例の早朝観察会を開催します。ご参加ください。

主催：西中国山地自然史研究会
協力：高原の自然館，芸北文化ホール

カキツバタの里づくりへ向けた地域の取り組み

開催日時：2005年5月29日（日）9：30
集合場所：高原の自然館
講師：カキツバタの里づくり実行委員会
準備：山を歩ける服装，弁当，雨具，双眼鏡，図鑑，メモ等
定員数：30名
参加料：300円
（ただし，西中国山地自然史研究会会員は100円）

和歌などで，古くから親しまれたカキツバタも，今や絶滅の危機に瀕しています。広島県で唯一，カキツバタの自生地が残る八幡では，自生地の保全に加え「カキツバタの里づくり」という取り組みが進められています。自然の保護と地域づくり。この二つはどのように結びついていくのでしょうか？当日は，カキツバタが自生する湿原で観察をしたあと，八幡地区で行われている取り組みについて解説していただきます。

主催：西中国山地自然史研究会
協力：高原の自然館，芸北文化ホール

今後の活動計画

6月 19日	阿佐山の植物と昆虫
6月 26日	植生調査
7月 30日	昆虫の観察会
7月 31日	湿原の植物観察会
8月 7日	オオサンショウウオの観察会
8月 21日	巣箱づくり
9月 19日	植生調査
9月 25日	雲月山の動植物
10月 2日	深入山の動植物
10月 8日	サツキマスの観察会
10月 8日	キノコの観察会
10月 9日	鳥類相調査
11月 6日	冬鳥の観察会
11月 6日	木の実と冬芽の観察会
11月 19日	草地談話会
11月 20日	千町原の刈り取り
1月 29日	アニマルトラッキング
2月 19日	スノートレッキング
3月 12日	スノートレッキング

読者サロン

このコーナーではみなさんから頂いたお便りをご紹介します。

テーマトーク

今回のテーマは、『芸北の春、ここが好き！』です。それでは、みなさんからのコメントを紹介します。

『芸北の春、ここが好き！』

さくまともこさん

私の思う芸北の春は、大量の雪解け水です。山はこんなに水をためていたのか..と驚きます。お気に入りには水口谷を流れる雪解け水です。この音を聞くと、春が来たー！！と思います。勢いよく流れる水の音を聞いているとなんだか嬉しくなってきます。

『私が感じる《芸北の春》について一言・・・』

杉本洋子さん

苗床用の土が道端に干してある風景冬から一変して、始まる！という感じがして春だなと思います。がしかし、苗床の土も買うようになり最近あまり見かけなくなりました。懐かしい春の風景になりつつあります。

『芸北の春』

misaoさん

いっぱい好きだけど特に好きなものはからまつの新緑ぶなの新芽

『芸北の春と題して』

屋敷百合子さん

長～い冬に終わりを告げようとする時、谷間のせせらぎの音を聞きながら春を告げようと谷に急ぎしマンサクの花・とりあえずやっとな出会えた春一番の花です。毎年決まった場所に必ず咲いて、春は直ぐそこだよと教えてくれます。地元にいればこそ、この花の開

は心踊るものが有るのかも知れません。四月上旬といえば市内では桜が満開ですが、ここ芸北の地は少し違って、右を見ればこぶしの花、左を見ればみつばつつじ、前を見れば少し終わりかけた桜の花、目をそらせばなぜか梅の花、これが極普通の芸北の春なのです。十年前故郷の地に足を踏み入れて今更のように驚いたのがこの四種類の花木が一斉に咲いている事でした。未だに「凄い」の一言につきます。

その他のおたより

その他にもこんなお便りをいただきました。

『山焼き 1週間後の深入山には...』

偵察隊さん

雲月山観察会から1週間、遠くの方で煙の上がった深入山が気になって見に行ってきました。山焼き1週間後の深入山には・・・やはりショウジョウバカマが咲いていました。しかし、山焼きが遅かったためか、花の焼けたショウジョウバカマもいくつか...新しい芽が出ていたものは、ヤマラッキョウ、アザミの仲間、ノダケ、キクの仲間、イワカガミの葉はこげていました。ハタネズミの巣は見かけませんでしたが、ウサギのフンがたくさん落ちていました。山頂にはカラスが数羽いて何かを探しているようでした。今年は雲月山に何度か通ってしまいそうです。これから植物がどんな風に競争していくのか楽しみです。

なるほどなるほど。同じ春でも、みなさん見ているところが違いますね...ただ、「変化」「はじまり」「新しい」というキーワードは共通しているようです。いろいろな人の視点で見ると、おもしろいですね。

それでは、今月もテーマを。

今月のテーマは、

『梅雨だけど、芸北にはコレがある！』
です。

ジメジメした季節は嫌なものですが、そんな時こそ、むしろ野外でおもしろいものが見られたりします。カキツバタが盛りを過ぎたころの芸北。さて、どんなものを見てますか？ちなみに、僕は学生時代、調査に来てテントに泊まり、雨だったのでそのまま本を読んで過ごしたことがあります。ゴメンナサイ。

偵察隊さんのように、テーマ以外のお便りもお待ちしてます。

このコーナーでは、皆さまのお便りをお待ちしております。西中国山地の自然賛やコラム、イベント情報をはじめ、苧尾電波塔の感想やご意見など何でも結構です。メールやファックス、葉書など、気軽に御寄稿ください。

花 だ よ り

オオヤマザクラ

一昨年の観察会で、苧尾にも分布していることが分かったサクラです。花はやや紅色を帯び、花序の付き方が特徴的です。

リュウキンカ

湿原に咲く「氷河期の生き残り植物」です。踏み荒らさないように、歩道からそっと見て下さい。双眼鏡を持っていくと良いですね。

クロモジ

登山道でも道路でも、たくさん見られます。花は小さいですが、とてもカワイイですよ。緑が鮮やかな新芽と黄色の対比がきれいです。

— インターネット版苧尾電波塔の紹介と購読移行のお願い —

苧尾電波塔はインターネットを利用した e-mail でも発行されています。印刷版と同じ情報が毎月あなたのメールアドレスに届きます。さらに e-mail なら、関連ホームページを見たり、そのまま返事することで観察会の申し込みができたり、とっても便利です。パソコンで e-mail をお使いの方ならどなたでも無料で申し込みができます。まずは高原の自然館ホームページをご覧ください。

高原の自然館ホームページからは、苧尾電波塔（紙版）の pdf ファイルをそのままダウンロードできます。郵送している紙版に比べ、鮮やかなカラー写真を見ることができ、ダウンロードしたファイルはご家庭のプリンタを使って印刷することもできます。そこで、高原の自然館では紙版（郵送）からインターネット版への購読移行をお願いしています。今後、紙版の郵送が不要な方は、高原の自然館までご連絡ください。みなさまのご協力をお願いいたします。

【高原の自然館】 <http://shizenkan.info/>

自然館がオープンしました。いつもこの時期に駐車場の桜が満開になるので、しばらくはめいっぱい春を感じながらの勤務です。今年はコブシも咲き年のようで、自然館一帯が良い匂いに包まれています。散ってしまうのが惜しいような、散る姿を眺めていたいような、そんな気分になります。そんな「ぼお〜っ」とした気分になるのも春のせいでしょうか。「あなたはいつもぼ〜っとしてる！」という声がどこかから聞こえてきそうですが・・・

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先（ご意見・ご感想もお待ちしています）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info